

令和6年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果(深谷中学校)

平均正答率

1 自校の平均正答率と県の平均正答率との比較

教科	国語			数学			英語	
	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中2	中3
深谷中	下回った	下回った	下回った	下回った	上回った	下回った	下回った	上回った
埼玉県	59.9	60.3	66.4	53.5	48.8	57.5	61.9	54.6

2 自校の学力レベルと県の学力レベル

教科	国語			数学			英語	
	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中2	中3
深谷中	7-C	7-A	8-A	6-C	7-A	8-C	8-A	10-C
埼玉県	7-A	8-C	9-C	6-B	7-A	8-C	9-C	10-C

3 自校の学力の伸びと県の学力の伸び

教科	国語			数学			英語	
	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中2	中3
深谷中		0	1		1	-1		2
埼玉県	1	0	2	0	2	0		3

児童生徒質問紙調査の結果と分析

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた値(単位 %)

		中1		中2		中3	
質問事項		深谷中	埼玉県	深谷中	埼玉県	深谷中	埼玉県
深谷の子の誓い	・将来の夢や目標を持っている	84	80	71	69	75	75
	・難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している	80	73	70	68	70	68
	・誰に対しても進んで挨拶をすることができている	93	85	90	83	91	91
	・脱いだはき物のかかとをそろえることができている	95	89	95	90	97	97
	・相手の気持ちやその場の状況を考え、やさしい言葉遣いができている	93	90	90	88	96	96
	・勉強するときは、最初に計画を立ててから始める	56	46	40	44	49	44
	・休日などの学校が休みの日に1日当たり1時間以上勉強している(塾等を含む)	75	69	77	66	73	72
学習等への関心	・勉強することが楽しい、好き(勉強する理由として)	14	16	14	11	81	77
	・勉強は将来の進学や就職に役に立つ(勉強する理由として)	73	77	66	69	73	65
	・地域の歴史や自然に関心をもっている	74	56	63	46	68	42
授業について	・授業を通して学んだ内容についてさらに詳しく知りたい、学びたいと思った	68	66	70	63	63	58
	・課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをもてるようになった	84	83	89	84	78	78
	・授業で、ほぼ毎回タブレットを使っていた	25	20	43	17	6	16
	・昨年度、週2回以上、タブレットを家に持ち帰って、宿題含めて学習に利用した	45	27	19	13	11	12
その他	・学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれた	94	92	91	93	94	94
	・学校の友達は自分のよいところを認めてくれた	95	95	94	95	98	98
	・学級での生活は楽しい	94	92	90	94	95	92

深谷中学校公表

【質問紙分析】

・「地域の歴史や自然に関心をもっている」という項目が県平均よりも数値が高くなっているのは、深谷小学校において「ふるさと教育」の取り組み（2カ年）が定着しており、子どもたちの地域への関心が高くなっていることが挙げられる。また、本年度から、2カ年で深谷中学校においても「ふるさと教育」の取り組みが始まり、更に数値の向上が期待できる。

・その他の項目で「学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれた」「学校の友達は自分のよいところを認めてくれた」「学級での生活は楽しい」において、90%以上の数値で高水準であるのは、深谷中では「アセス」を全学年で実施した。アセスの即時的・効果的な活用により先生方が、迅速かつ丁寧な対応を個々に行っていることが考えられる。また、3年生では「B-SAFE」も実施し、より手厚いサポートを施すことができている。

伸びが見られた学級・教科での取組

【学級】

・学級会を定期的で開催しており、話し合い活動が活発であり、友人や教師との関係性が良好になっている。生徒間、教師間で目標の共有化、集団としてまとまりがあり、一丸となって学力向上に取り組もうとする雰囲気が見られる。

・学級通信の効果的な活用、生徒教師で作上げた学級掲示や、全学年においてアセスを実施した。アセスを効果的に活用し、即時的に個別・集団に支援を行うことができている。

・道徳の授業が充実している。

・非認知能力の育成に長けており、学習や行事に取り組む際に、意図的・計画的な仕掛けが準備されている。

【教科での取り組み】

○国語

・ICTの効果的な活用やワークシートの工夫を行い、授業を飽きさせない取り組みや、漢字や文法は、基礎基本が定着するように繰り返しの学習を行った。

○数学

・問題が解けるまで見届ける作業を、丁寧に行っていた。また、ペア学習を通して相手に伝達する場面や自力解決の場面を設けた。問題解決型の授業を行うことができた。

○英語

・導入で、課題文に対して、スタートとゴールが決まったスモールトークを行い、興味関心を引き出す工夫を行っている。

一人一人をより伸ばすための取組

・県学調の活用法が分からない教員、特に若手の教員に対し、活用法の研修会を行う。各帳票がどのような役割で、どう活用すればよいか、個人票を返却する時の注意点など、細かく研修会で伝達する。

深谷中学校公表

・校内研修において、実際に県学調の問題を職員が解き、どのような資質・能力の育成が求められているかを学年単位で話し合う。教科部会内での相互授業参観、管理職による授業参観を通じて、教職員の資質能力を向上させ、生徒へ還元していく。